

令和 8 年度～令和 11 年度

県立高校等再編整備計画

－ 生徒一人一人の夢を叶える特色ある学校づくりの推進 －



令和 7 年 6 月

新潟県教育委員会

はじめに

本県では、これまで、平成 28 年 3 月に策定した「県立高校の将来構想」に基づき、高校の再編整備を行ってきました。

しかしながら、想定を上回る少子化の進行に加え、G I G A スクール構想の推進に伴う I C T 環境の整備や、広域通信制高校への進学者数増加などにみられる生徒の学習ニーズの多様化など、県立高校を取り巻く環境が大きく変化していることから、時代に即した学校づくりの方向性を示すため、令和 7 年 3 月に、新しい「県立高校の将来構想」を策定し、公表したところです。

本構想の計画期間は、令和 7 年度から令和 16 年度までとしており、今後はこの新しい構想に基づいて、具体的な再編整備を進めてまいります。

本構想では、少子化が進行する中であっても、県立高校の特色化を進め、生徒・保護者から選ばれる魅力ある学校づくりを進めることとしており、探究的な学びや、S T E A M 教育、教科横断的な学びなどを重視した「新しい普通科系学科・コース」や、複数の専門学科を併せ持つ「産業高校」、生徒が自分の状況に合わせて学びの方法や場所を選択することができる「セルフデザインハイスクール」などを設置することとしています。

こうした新しい学校の設置については、地域別説明会やパブリックコメントにおいて、できるだけ早期に示してほしいという声が寄せられたことから、今回の県立高校等再編整備計画では、令和 11 年度までの再編整備の概要を提示しながら、「将来構想」に基づいた高校の特色化の具体的な内容についてお示しするため、向こう 4 か年分について公表することとしました。これにより、中学校や中等教育学校への進学を控えた小学校 6 年生及びその保護者の皆様にも、高校入学時の学校・学科のおおよその姿を事前に把握していただくことができます。

本計画の策定にあたっては、小中学校の在籍生徒数や各高校の志願状況、中学生の進路希望等に加え、教育に対する社会のニーズや県の課題にも留意しました。なお、本計画における令和 8 年度から令和 11 年度の募集学級数の見込みは、現時点でのデータに基づく見通しをお示ししたものであり、令和 8 年度の募集学級数ならびに募集定員については、今後、最新の学校基本調査の結果等も踏まえ、本年 10 月の教育委員会の議決により、決定されます。

県立高校等の再編整備は、保護者をはじめとする県民の皆様の御理解・御協力が不可欠でありますので、現在の高校等の教育を取り巻く現状や本県の課題等を御理解いただき、一層の御協力を賜りますようお願いいたします。

令和 7 年 6 月 26 日

新潟県教育委員会教育長
太田 勇二

1 基本的な考え方

「県立高校の将来構想」に基づき、魅力と活力ある学校づくりを推進する

(1) 目指す人づくりの姿

ふるさとへの愛と誇りを胸に、夢や希望を持って粘り強く挑戦するとともに、自ら学び続ける力を身に付け、未来を切り拓いていける、たくましいひとづくり

- 地域への理解を深め、郷土愛を育むことで、地域社会を支える人材を育成するとともに、生徒一人一人が夢の実現に向けてチャレンジし、生涯を通じて主体的に学び続ける力を育成することで、急激に変化する社会の中にあっても、たくましく生きていくひとづくりを目指す。

(2) 「将来構想」の3つの基本方針

- ◆ 多様化する教育ニーズに対応した選ばれる学校づくりの推進
- ◆ 多様な主体との連携・協働やICTの活用による教育環境の充実
- ◆ 教育の質の維持・向上を図る再編整備の推進

(3) 学校規模・配置

県内を6つのエリアに分け、生徒の就学の機会に配慮し、交通事情などそれぞれのエリアの状況を斟酌しながら、必要な学校・学科をバランス良く配置する。

以下の学校を各エリアに1校以上配置する。

- ◆ 1学年あたり4学級以上の普通科系高校
- ◆ 1学年あたり3学級以上の専門系高校（総合学科を含む）
- ◆ 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校

※ 生徒の流出入が限られているエリア⑥（佐渡エリア）の配置については別途検討することとする。

※ 1学級あたりの生徒数は40人とする。

- 各エリアに上記の学校を配置することで、居住する地域によらず、大学等、上級学校への進学に向けた学びや、専門分野の学びなど、生徒の興味・関心や進路希望に応じた選択肢を今後も提供していく。そのための学校規模を維持するため、学校・学科の統合を進めることとする。
- 学校の統合にあたっては、より良い教育環境を整備するために、統合校における教育内容や施設・設備等の充実をあわせて検討する必要がある。

- 離島・中山間地域などの地理的条件や、学びのセーフティネットの確保の観点等を踏まえ、あえて存続させる小規模校もあり得る。存続させる小規模校においては、ＩＣＴを活用した遠隔教育や、地域との協働体制構築などを進め、そのデメリットの最小化を図ることとする。

(４) 高校の特色化と魅力ある学校づくり

ア 普通科系学科

- 探究的な学びを推進し、「新しい普通科系学科・コース」の設置や、県外の生徒も学びたくなるような特色ある教育プログラムの導入などを進める。

イ 職業教育を主とする専門学科

- 地域産業界や大学等との連携を一層推進するとともに、複数の専門学科を併せ持つ「産業高校」を設置する。
- 生徒が自分の所属する専門学科での深い学びを軸にしながら、学科を横断した学校設定教科の設置、異なる学科の生徒が協働して取り組む課題研究の実施など、他の専門学科との横断的・協働的な学びを進める。

ウ 総合学科

- 遠隔教育システムを活用した学校間連携のネットワークを構築し、専門科目の学びの充実や、協働的な学びの充実を図る。

エ 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校

- 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校として、「セルフデザインハイスクール」を設置する。
- 従来の定時制課程の仕組みをベースとした「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置し、生徒が自分の状況に合わせて学びの方法や場所を選択できるような柔軟な制度設計に取り組む。
- 単位制による全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」も設置する。

オ 中高一貫教育校

- ６年間を見通した探究プログラムの充実を図るとともに、ＩＣＴも活用しながら、中等教育学校間の生徒交流や、遠隔教育による合同授業の実施などに取り組む。

2 「将来構想」の具体化

(1) 令和7年度～令和11年度 再編整備の概要一覧

令和7年度	設置済 ・三条高校に理数科を設置し、理数科内にメディカルコース及びイノベーションコースを設置。
令和8年度	・新潟北高校と豊栄高校を統合する。 ・新潟北高校の校舎内に、デザイン、健康科学、こども福祉など、多彩な学びの選択肢を備えた、単位制による全日制普通科高校を新たに設置する。
	・柏崎翔洋中等教育学校前期課程を募集停止とする。 ・柏崎高校の校舎内に『柏崎高校附属中学校（仮称）』を設置し、併設型中高一貫教育校とする。
	新しい普通科系学科(P.5参照) ・十日町高校に、探究的な学びに重点を置いた新しい普通科系学科の『クロス探究科（仮称）』を設置する。
	・佐渡中等教育学校前期課程を募集停止とする。 ・佐渡中等教育学校の校舎内に佐渡高校両津キャンパス（単位制による全日制課程普通科）を設置する。
令和9年度	特色ある教育プログラム(P.5参照) ・国際情報高校を募集停止とする。 ・国際情報高校の校舎内に、ケンブリッジ国際教育プログラムを導入した新たな全日制単位制高校として、『国際フロンティア高校（仮称）』を設置する。
令和10年度	新たな中高一貫教育校(P.9参照) ・村上高校と村上中等教育学校を統合し、新たな併設型中高一貫教育校を設置する。（併設型中学校は令和10年度から募集を開始し、併設型高校は令和13年度から募集を開始する。）
	セルフデザインハイスクール(P.7参照) ・正徳館高校を長岡明德高校と統合し、長岡明德高校を「セルフデザインハイスクール」とする。 ・長岡明德高校夜間部を募集停止とし、長岡明德高校に通信制課程を設置する。
	セルフデザインハイスクール(P.7参照) ・高田南城高校を「セルフデザインハイスクール」とする。
令和11年度	全通セルフデザインハイスクール(P.8参照) ・新潟翠江高校を新潟向陽高校と統合する。 ・新潟翠江高校の通信制課程を新潟向陽高校に移管し、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。
	産業高校(P.6参照) ・新潟県央工業高校と三条商業高校を統合し、工業系学科と商業系学科を併せ持つ新たな専門学科の高校「産業高校」を設置する。

(2) 今後のあり方の検討が必要となる主な学校

「1 基本的な考え方」で示した「学校規模・配置」を維持し、新しい学校づくりを進めるため、今後、以下の学校のあり方を検討する必要がある。

ア 小規模校

- 小規模校については、各学校における特色化の取組状況や、志願状況、入学状況、卒業生の進路状況等を評価しながら、地域の交通事情や地元生徒の入学状況など地域の特性も踏まえて、あり方を検討する。
- 1学級募集及び2学級募集の高校に加え、学校や地域の状況を踏まえながら、3学級募集の高校についてもあり方の検討を進める。

【1学級募集の高校（R7年度）】

阿賀野、白根、阿賀黎明、栃尾、有恒、羽茂

【2学級募集の高校（R7年度）】

中条、村松、吉田、分水、見附、柏崎常盤、八海、松代

イ 将来的な小規模化が見込まれる専門高校及び総合高校

- 農業、工業、商業など複数の専門学科を併せ持つ「産業高校」の設置に向け、専門高校どうしの統合を検討する。
- 専門高校の統合にあたっては、統合前の学校施設・設備等を活用する「キャンパス制」の導入についても、必要に応じて検討する。
- 将来的な小規模化が見込まれる総合高校については、同一エリアの専門高校や普通科高校との統合を含め、あり方を検討する。

【3学級募集の専門高校及び総合高校（R7年度）】

村上桜ヶ丘、新発田商業、柏崎総合、柏崎工業、小千谷西、塩沢商工、十日町総合、高田商業、新井、糸魚川白嶺、佐渡総合

ウ 定時制・通信制課程の高校

- 各エリアにおける定時制課程・通信制課程の高校のあり方を検討しながら、「セルフデザインハイスクール」の設置を進める。

【定時制課程の高校】

西新発田、荒川、出雲崎、堀之内、十日町（夜間部）、佐渡相川分校

※ 中等教育学校

中等教育学校については、令和3年3月に提出された「県立中等教育学校あり方検討委員会」の提言に基づき、対応を進めることとしている。それぞれの中等教育学校における志願状況や地域の状況について検証し、地元自治体との意見交換を継続的に行いながら、中高一貫教育の実施形態の転換も含め、そのあり方について検討を進める。

(3) 令和8年度～令和11年度 再編整備の具体的な内容について

ア 普通科系学科

新しい普通科系学科・コースの設置

令和8年度 十日町高校に、探究的な学びに重点を置いた新しい普通科系学科『クロス探究科（仮称）』を設置する

- 十日町高校では、『クロス探究科(仮称)』を設置します。『クロス探究科(仮称)』では、大学や研究機関と連携した探究的な学びや、理系や文系といった従来の枠にとらわれない、教科横断的な学びの機会の充実を図り、学問を深く追究する活動を積極的に取り入れます。
- 「総合的な探究の時間」に加え、学校設定科目を設置して、STEAM教育等、教科横断的な学習のプログラムを構築することとしており、多様な学問分野から探究する、アカデミックな活動を3年間通じて行います。
- 変化する社会に適応するための総合的な問題解決能力や、創造力、柔軟な思考力等を育成するとともに、大学等、上級学校への進学につなげたいと考えています。

特色ある教育プログラムの導入

令和9年度 ケンブリッジ国際教育プログラムを導入した新たな全日制単位制高校として、『国際フロンティア高校（仮称）』を設置する

- 国際情報高校を『国際フロンティア高校（仮称）』として校名を変更し、全国の公立高校では初となるケンブリッジ国際教育プログラムを導入するとともに、全日制単位制高校として学科のあり方や教育活動を一新します。
- ケンブリッジ国際教育プログラムは、世界最大の国際カリキュラム・評価開発機関である、ケンブリッジ大学国際教育機構が提供する国際教育プログラムであり、国際バカロレアと並び、アメリカ、イギリスなど、世界中の大学への入学資格の取得につながるものです。日本における本プログラムの認定校は、現在、20校以上ありますが、公立高校での認定校はありません。
- プログラムで導入する科目は全て英語で授業を行い、現在のところ、地理歴史（地理）、数学、理科（物理・化学・生物）、外国語の科目での実施を検討しています。
- 本プログラムを通じて、国際的な視野を広げるとともに、アカデミックな英語力、論理的思考力、問題解決能力、表現力などを養い、グローバル社会で活躍できる人材を育成したいと考えています。
- 教育課程については、1年次に本プログラムの基礎的な科目を全員が履修し、2年次、3年次に海外大学への進学につながる応用的な科目を選択履修する形を検討しています。また、総合型選抜等による国内大学への進学にも対応する予定です。

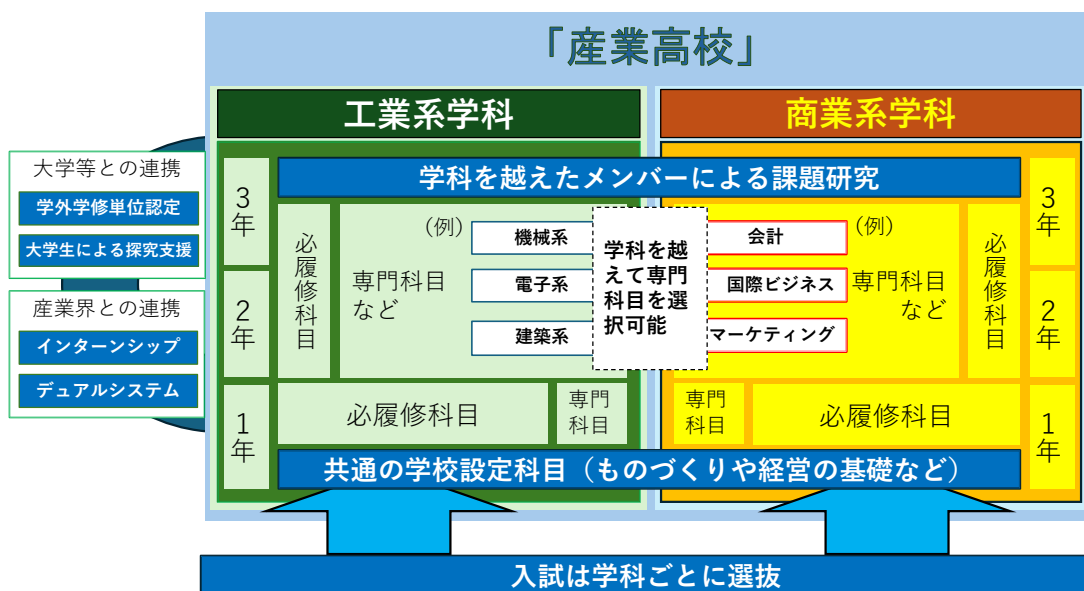
イ 職業教育を主とする専門学科

「産業高校」の設置

令和 11 年度 新潟県央工業高校と三条商業高校を統合し、工業系学科と商業系学科を併せ持つ新たな専門高校「産業高校」を設置する

- この「産業高校」では、生徒が自分の所属する工業系学科または商業系学科での深い学びを軸としながら、他の専門学科との横断的・協働的な学びを進め、新しい価値を創造し、経営や技術面において産業界をリードする人材を育成することとしています。
- 他学科の専門科目の一部を選択可能とし、自分の専門分野と異なる知識や考え方を取り入れ、新たな発想を生み出し、既存の枠組みにとらわれることなく、地域産業の課題解決に資することができるような教育課程を編成します。
- 例えば、工業を学ぶ生徒が、商業の専門科目であるマーケティングや原価計算を学ぶことにより、製品の付加価値や製造原価についての意識を持ちながら、ものづくりに取り組むことができるようになります。また、生徒の探究テーマにより取り組む課題研究では、工業系や商業系といった学科の枠にとらわれないグループを編成し、それぞれの学科の専門性を生かしながら、地元企業の協力のもと、実践的、協働的な探究活動を行います。
- さらに、将来の起業を想定したアントレプレナーシップ教育や、海外との取引を想定し、国際理解教育にも取り組みます。
- 地域産業界や大学等の高等教育機関と連携した実践的な職業教育やインターンシップ、デュアルシステム等を組み入れた、産官学が一体となった教育課程の開発にも取り組みます。
- この「産業高校」の校舎については、地元関係者とも協議しながら検討します。

【参考】「産業高校」のイメージ



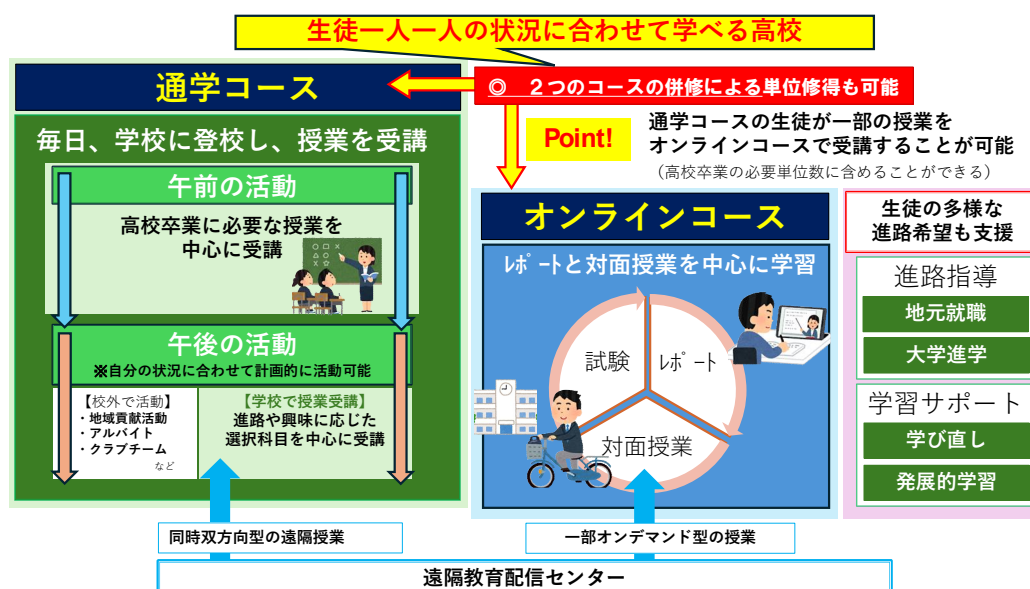
ウ 生徒一人一人の状況に合わせて学べる高校

「セルフデザインハイスクール」の設置

令和10年度 長岡明德高校及び高田南城高校を「セルフデザインハイスクール」とする

- 生徒の多様な学習ニーズに応えるため、定時制課程と通信制課程の垣根を越えた学びの仕組みを構築するとともに、遠隔教育の活用やデジタルレポートの導入を行い、生徒が自分の状況に合わせて学びの方法や場所を選択することができる「セルフデザインハイスクール」を設置します。
- この高校では、従来の定時制課程の仕組みをベースとした「通学コース」と、通信制課程の仕組みをベースとした「オンラインコース」を設置し、お互いのコースの単位修得や、コース間の転籍を柔軟に行えるような制度設計に取り組みます。
- 「通学コース」では、毎日の対面授業を中心としながら、「オンラインコース」の授業も選択可能とし、生徒の多様な進路希望や生活スタイルに応じて、時間割を設定できるようにします。「オンラインコース」では、レポートとスクーリングを中心としながら、「遠隔教育配信センター」が提供するオンデマンド授業も活用することで、学びのスタイルをより柔軟に選べるようにします。
- また、「通学コース」の生徒が、毎日通学することが困難となった場合、「オンラインコース」に転籍することで、同じ学校で学び続けられるような仕組みを構築します。
- 「オンラインコース」においても、対面で学ぶ機会を確保することとしており、体験的な活動の充実を図るとともに、コミュニケーションスキルを高めるための内容を取り入れた集中スクーリングの実施なども検討していきます。
- なお、長岡明德高校と統合する正徳館高校については、1学級募集とした平成28年度以降、恒常的な定員割れが続いてきたことから、地元との意見交換を重ねてきた結果、このたび募集停止とすることとしました。

【参考】「セルフデザインハイスクール」のイメージ

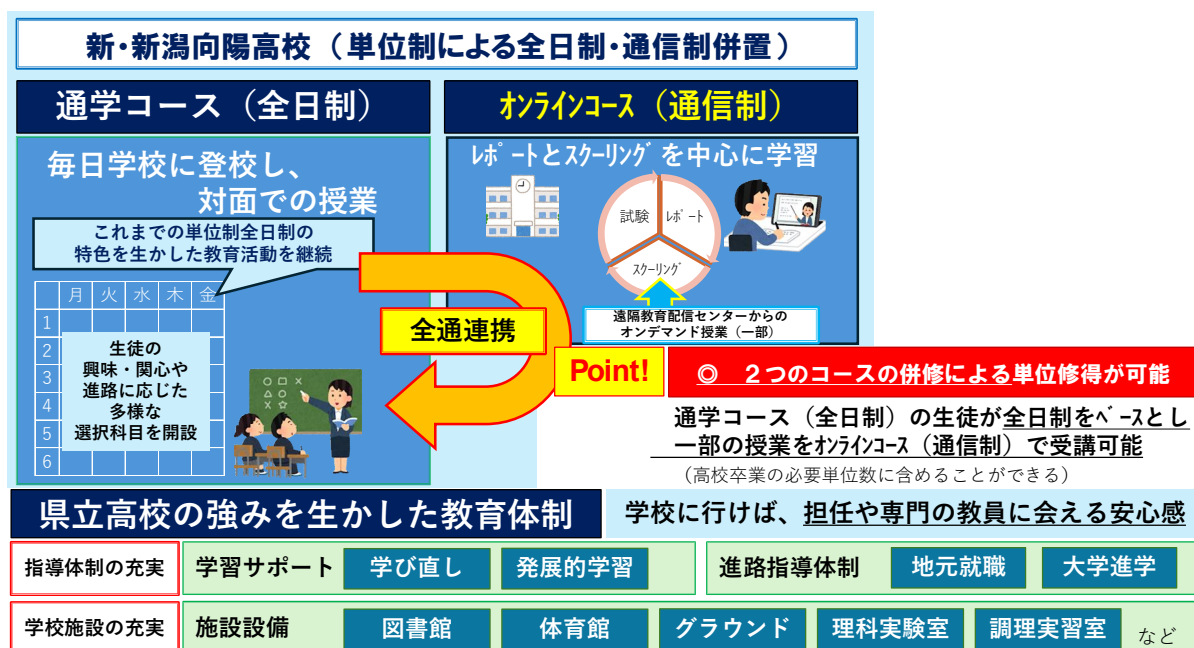


全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」の設置

令和 11 年度 新潟向陽高校を全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする

- 新潟翠江高校を募集停止とし、通信制課程を新潟向陽高校に移管します。
- そのうえで、新潟向陽高校を、単位制による全日制課程の仕組みをベースにした「通学コース（全日制）」と、これまでの通信制課程の仕組みをベースにした「オンラインコース」による「セルフデザインハイスクール」とします。
- 2つのコース間において、お互いの単位修得や転籍を柔軟に行えるような仕組みを構築します。
- 「通学コース（全日制）」では、新潟向陽高校のこれまでの全日制単位制の仕組みを維持しながら、「オンラインコース」で一部の単位修得ができるようにします。
- 「通学コース（全日制）」の生徒が、様々な事情で毎日通学することが困難になった場合、「オンラインコース」に転籍することで、同じ学校で学び続けられるような仕組みを構築します。また、生徒の状況に応じて、再度「通学コース」に戻ることができるような仕組みも検討します。
- 令和 11 年度に、新潟翠江高校通信制課程に在籍する生徒は、以後のスクーリングを新潟向陽高校の校舎で行います。
- なお、新潟翠江高校定時制課程については、平成 28 年度から午前部だけの募集としてきましたが、恒常的に定員割れが続いていることから、このたび募集停止とすることとしました。令和 10 年度入学生が最後の入学生となり、新潟翠江高校校舎に卒業まで通学します。当該年度の入学生が 4 年間で卒業する令和 13 年度末に閉校する予定です。

【参考】全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」のイメージ



工 中高一貫教育校

新たな中高一貫教育校

令和 10 年度 村上高校と村上中等教育学校を統合し、新たな併設型中高一貫教育校を設置する（併設型中学校は令和 10 年度から募集を開始し、併設型高校は令和 13 年度から募集を開始する。）

- 村上高校と村上中等教育学校を統合し、新しい中高一貫教育校を設置します。大学進学を重視する学校としての役割を 1 つに統合し、スケールメリットを活かしながら、教育活動の充実を図ります。
- 両校の学びを継承しつつ、生徒の進路希望の実現に向けて、より一層、確かな学力を育成する学校とします。
- 新たな中高一貫教育校の設置場所については、以下のとおりとします。
 - ① 令和 10 年度から令和 12 年度まで、併設型中学校は村上中等教育学校の校舎を使用します。
 - ② 令和 13 年度に、併設型中学校と村上中等教育学校をまとめて村上高校の校舎に移転します。
 - ③ 令和 13 年度以降、併設型中学校、併設型高校ともに村上高校の校舎を使用します。
- 令和 10 年度に、村上中等教育学校の校舎で新しい併設型中学校の募集を開始します。併設型中学校は、村上中等教育学校と連携しながら、6 学年そろった学習環境を維持することとします。
- 令和 13 年度に、村上高校の校舎で新しい併設型高校の募集を開始します。なお、新しい併設型高校の学校名については、今後、地元関係者とも協議しながら検討します。併設型中学校の生徒に対しては入学者選抜を行わずに、併設型高校に接続します。併設型中学校以外の市立中学校などに対しても生徒募集を行い、この場合は他の高等学校と同様に入学者選抜を行います。
- 村上中等教育学校の令和 8 年度入学生（現小学 6 年生）は、中等教育学校 6 年生になるときに移転します。令和 9 年度入学生（現小学 5 年生）は、中等教育学校 5 年生になるときに移転します。
- 併設型中学校の令和 10 年度入学生（現小学 4 年生）は、高校 1 年生で移転します。令和 11 年度入学生（現小学 3 年生）は、中学 3 年生で移転します。令和 12 年度入学生（現小学 2 年生）は、中学 2 年生で移転します。併設型中学校の令和 13 年度入学生（現小学 1 年生）は、最初から村上高校の校舎を使用します。
- 併設型中高一貫教育校の 6 学年すべてがそろうのは、令和 15 年度からとなります。

【参考】統合における校舎使用のイメージ

令和9年度～令和12年度

※○数字は学級数

村上中等教育学校 校舎					
	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13
中等6	中等R4入学	中等R5入学	中等R6入学	中等R7入学	
[学級]	②	②	②	②	
中等5	中等R5入学	中等R6入学	中等R7入学	中等R8入学	
[学級]	②	②	②	②	
中等4	中等R6入学	中等R7入学	中等R8入学	中等R9入学	
[学級]	②	②	②	②	
中3 (中等3)	中等R7入学	中等R8入学	中等R9入学	併中R10入学	
[学級]	②	②	②	②	
中2 (中等2)	中等R8入学 (現小学6年)	中等R9入学	併中R10入学	併中R11入学	
[学級]	②	②	②	②	
中1 (中等1)	中等R9入学 (現小学5年)	併中R10入学 (現小学4年)	併中R11入学 (現小学3年)	併中R12入学 (現小学2年)	
[学級]	②	②	②	②	

*5学年分、村上高校に移転

令和13年度～令和15年度

村上高校 校舎

	R 13	
中等6 (高3)	中等R8入学 (現小学6年)	村高R11入学 (現小学6年)
[学級]	②	②
中等5 (高2)	中等R9入学 (現小学5年)	村高R12入学 (現小学5年)
[学級]	②	②
中等4 (高1)	併中R10入学 (現小学4年)	(高校から入学) 2クラス分
[学級]	②	
中3	併中R11入学 (現小学3年)	入学者選抜 併高R13入学 (現小学4年)
[学級]	②	②
中2	併中R12入学 (現小学2年)	
[学級]	②	
中1		
[学級]		

	R 14	
中等R9入学	村高R12入学	
②	②	
併中R10入学	併高R13入学	
②	②	
併中R11入学	(高校から入学) 2クラス分	
②		
併中R12入学	入学者選抜 併高R14入学	
②	②	
併中R13入学		
②		

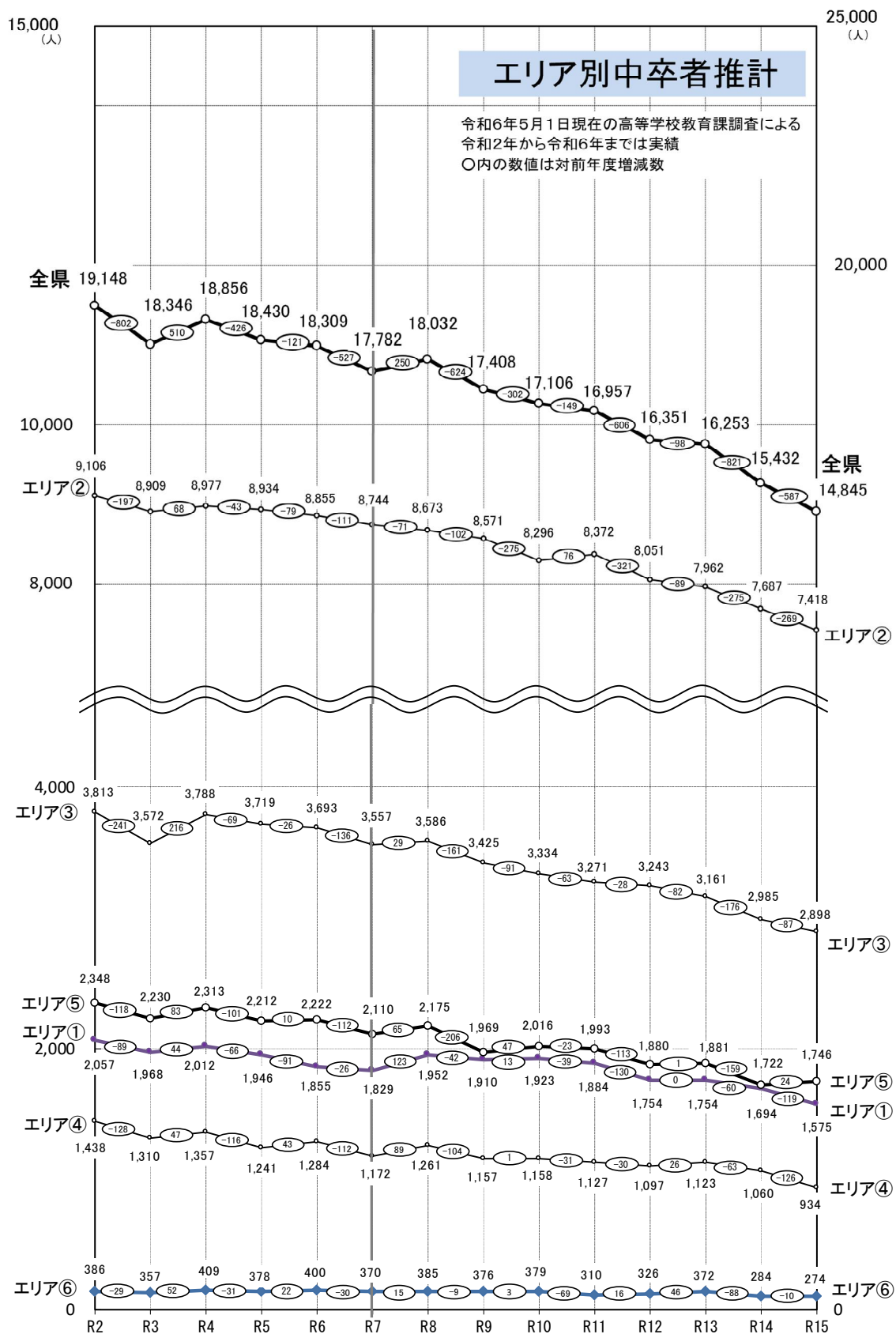
	R 15	
併中R10入学 (現小学4年)	併高R13入学 (現小学4年)	
②	②	
併中R11入学	併高R14入学	
②	②	
併中R12入学	(高校から入学) 2クラス分	
②		
併中R13入学	入学者選抜 併高R15入学	
②	②	
併中R14入学		
②		

併中R13入学 (現小学1年)
②

併中R14入学
②

併中R15入学
②

3 エリア別中卒者推計



市町村一覧

エリア名	市町村名
エリア①	新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村
エリア②	新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町
エリア③	長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村
エリア④	十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町
エリア⑤	糸魚川市、妙高市、上越市
エリア⑥	佐渡市

4 計画内容

(1) 県立高校等の募集学級数等

- ※ 各年度の中学校卒業生数は、令和6年5月1日現在の学校基本調査による推計値である。
 ※ 学級数及び学校数は中等教育学校後期課程を含む合計数である。また、分校も1校として算入している。

	R7	R8	R9	R10	R11
全県 中学校卒業生数	17,782	18,032	17,408	17,106	16,957
前年差	-527	250	-624	-302	-149
	R7	R8	R9	R10	R11
募集学級数	募集学級数の見込み				
全日制学級数	299	302	289	280	277
全日制増減	-15	3	-13	-9	-3
定時制学級数	15	15	15	14	13
定時制増減	0	0	0	-1	-1
全定学級数	314	317	304	294	290
増減	-15	3	-13	-10	-4
全日制学校数	78	78	78	77	74
学校数増減	0	0	0	-1	-3
定時制学校数	9	9	9	9	8
学校数増減	0	0	0	0	-1

<参考> 新潟市立学校及び私立学校（全日制）の募集学級数等
 [新潟市立学校]

	R7	R8	R9	R10	R11
募集学級数	募集学級数の見込み				
全日制学級数	9	9	9	9	9
増減	0	0	0	0	0
定時制学級数	4	4	3	3	3
増減	0	0	-1	0	0
全定募集学級数	13	13	12	12	12
増減	0	0	-1	0	0
全日制学校数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0
定時制学校数	1	1	1	1	1
増減	0	0	0	0	0

※ 新潟市教育委員会による計画

[私立学校]

	R7	R8	R9	R10	R11
募集学級数	募集学級数の見込み				
全日制学級数	113	113	113	113	113
増減	-2	0	0	0	0
全日制学校数	16	16	16	16	16
増減	0	0	0	0	0

※ 総務部大学・私学振興課調べ

(2) エリアごとの計画

(エリア① 新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村)

	R7	R8	R9	R10	R11
中学校卒業生数	1,829	1,952	1,910	1,923	1,884
前年差	-26	123	-42	13	-39
	R7	R8	R9	R10	R11
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	32	34	33	33	32
増減	-1	2	-1	0	-1
定時制学級数	3	3	3	3	3
増減	0	0	0	0	0
全定学級数	35	37	36	36	35
増減	-1	2	-1	0	-1
全日制学校数	9	9	9	9	9
増減	0	0	0	0	0
定時制学校数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和 8 年度	予定なし
令和 9 年度	予定なし
令和 10 年度	・ 村上高校と村上中等教育学校を統合し、新たな併設型中高一貫教育校を設置する。（併設型中学校は令和 10 年度から募集を開始し、併設型高校は令和 13 年度から募集を開始する。） （※ P. 9 参照）
令和 11 年度	予定なし

検討事項	・ I C Tを活用した遠隔授業の拡充について検討する。 ・ 地域の特長や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・ 「セルフデザインハイスクール」の設置について検討する。 ・ 「産業高校」の設置について検討する。 ・ 総合学科のあり方について検討する。
------	---

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
村上	普 通	3	4	3	3	2
村上桜ヶ丘	総 合	3	3	3	3	3
中条	普 通	2	2	2	2	2
新発田	普 通	6	6	6	6	6
	理 数	1	1	1	1	1
新発田南	普 通	3	4	4	4	4
	機械工学	4	4	4	4	4
	建築工学					
	土木工学					
	電子情報工学					
新発田農業	生物資源	4	4	4	4	4
	食品科学					
	環境科学					
新発田商業	商 業	3	3	3	3	3
阿賀野	普 通	1	1	1	1	1
計		30	32	31	31	30

<定時制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R7	R8	R9	R10	R11	
西新発田	普通(午前部)	2	2	2	2	2	
荒川	普通(午前部)	1	1	1	1	1	
計		3	3	3	3	3	

<中等教育学校>

学 校 名	課 程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
村上中等 教育学校	前期課程	(2)	(2)	(2)	募集停止	
	後期課程	2	2	2	2	2

<中学校>

学 校 名	募集学級数	募集学級数の見込み			
	R7	R8	R9	R10	R11
村上・村上中等統合中学校				(2)	(2)

(エリア② 新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町)

	R7	R8	R9	R10	R11
中学校卒業人数	8,744	8,673	8,571	8,296	8,372
前年差	-111	-71	-102	-275	76
	R7	R8	R9	R10	R11
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	135	133	131	123	124
増減	-4	-2	-2	-8	1
定時制学級数	1	1	1	1	0
増減	0	0	0	0	-1
全定学級数	136	134	132	124	124
増減	-4	-2	-2	-8	0
全日制学校数	29	28	28	28	27
増減	0	-1	0	0	-1
定時制学校数	1	1	1	1	0
増減	0	0	0	0	-1

◆ 再編整備の概要

令和 8 年度	・新潟北高校と豊栄高校を統合する。 ・新潟北高校の校舎内に、デザイン、健康科学、こども福祉など、多彩な学びの選択肢を備えた、単位制による全日制普通科高校を新たに設置する。
令和 9 年度	予定なし
令和 10 年度	予定なし
令和 11 年度	・新潟翠江高校を新潟向陽高校と統合する。 ・新潟翠江高校の通信制課程を新潟向陽高校に移管し、全日制課程と通信制課程を併置した「セルフデザインハイスクール」とする。 (※ P. 8 参照) ・新潟県央工業高校と三条商業高校を統合し、工業系学科と商業系学科を併せ持つ新たな専門学科の高校「産業高校」を設置する。 (※ P. 6 参照)

検討事項	・ICTを活用した遠隔授業の拡充について検討する。 ・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・中等教育学校のあり方について検討する。
------	---

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
豊栄	普 通	1	統合			
新潟	普 通	7	6	6	6	6
	理 数	2	2	2	2	2
新潟中央	普 通	4	4	4	4	4
	普通(学究コース)	2	2	2	1	1
	食 物	1	1	1	1	1
	音 楽	1	1	1	1	1
新潟南	普 通	8	8	7	7	7
	普通(理数コース)	1	1	1	1	1
新潟江南	普 通	7	7	7	6	7
新潟西	普 通	7	7	7	6	7
新潟東	普 通	6	7	7	6	6
新潟北	普 通	3	統合			
新潟北・豊栄統合校	普 通		4	4	4	4
新潟工業	I T工学	7	7	7	6	7
	メカトロニクス工学					
	都市工学					
	建築工学					
	環境化学					
新潟商業	総合ビジネス	4	4	4	4	4
	情報処理	2	2	2	2	2
	国際教養	2	2	2	1	1
新潟向陽	普 通	5	5	5	4	統合
新潟向陽 (セルフレディンハイスクール)	普 通					4

<全日制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
巻	普 通	6	6	6	6	6
巻総合	総 合	5	4	4	4	4
新津	普 通	6	6	6	6	6
新津工業	工業マイスター	1	1	1	1	1
	生産工学	1	1	1	1	1
	ロボット工学	1	1	1	1	1
	日本建築	1	1	1	1	1
新津南	普 通	3	3	3	2	2
白根	普 通	1	1	1	1	1
五泉	総 合	5	5	5	5	5
村松	普 通	2	1	1	1	1
阿賀黎明	普 通	1	1	1	1	1
三条	普 通	5	5	5	5	5
	理 数	1	1	1	1	1
三条東	普 通	5	5	5	5	5
新潟県央工業	機械加工	4	4	4	4	統合
	電子機械					
	情報電子					
	建設工学					
三条商業	総合ビジネス	3	3	3	3	統合
新潟県央工業・ 三条商業 統合校	工業系					3
	商業系					2
吉田	普 通	2	2	2	2	2
分水	普 通	2	2	2	2	2
加茂	普 通	4	4	3	3	3
加茂農林	生産技術	4	4	4	4	4
	環境緑地					
	食品技術					
	生物工学					
計		133	131	129	121	122

< 定時制課程 >

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
新潟翠江	普通(午前部)	1	1	1	1	募集停止

< 通信制課程 >

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
新潟向陽 (セルフレディンハイスクール・ オンラインコース)	普 通					若干人
新潟翠江	普 通	若干人	若干人	若干人	若干人	統合

< 中等教育学校 >

学 校 名	課 程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
燕中等 教育学校	前期課程	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	後期課程	2	2	2	2	2

(エリア③ 長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村)

	R7	R8	R9	R10	R11
中学校卒業生数	3,557	3,586	3,425	3,334	3,271
前年差	-136	29	-161	-91	-63
	R7	R8	R9	R10	R11
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	59	60	56	54	52
増減	-4	1	-4	-2	-2
定時制学級数	5	5	5	4	4
増減	0	0	0	-1	0
全定学級数	64	65	61	58	56
増減	-4	1	-4	-3	-2
全日制学校数	16	16	16	15	14
増減	0	0	0	-1	-1
定時制学校数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和 8 年度	・ 柏崎翔洋中等教育学校前期課程を募集停止とする。 ・ 柏崎高校の校舎内に『柏崎高校附属中学校（仮称）』を設置し、併設型中高一貫教育校とする。
令和 9 年度	予定なし
令和 10 年度	・ 正徳館高校を長岡明德高校と統合し、長岡明德高校を「セルフデザインハイスクール」とする。（※ P.7 参照） ・ 長岡明德高校夜間部を募集停止とし、長岡明德高校に通信制課程を設置する。
令和 11 年度	予定なし

検討事項	・ I C Tを活用した遠隔授業の拡充について検討する。 ・ 地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・ 「セルフデザインハイスクール」の設置について検討する。 ・ 総合学科のあり方について検討する。
------	---

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
長岡	普 通	6	6	5	5	5
	理 数	2	2	2	2	2
長岡大手	普 通	5	6	5	5	5
	家 政	1	1	1	1	1
長岡向陵	普 通	5	5	5	5	5
長岡農業	生産技術	4	4	3	3	3
	食品科学					
	生活環境					
長岡工業	機械工学	5	5	5	5	5
	電気電子工学					
	物質工学					
	産業デザイン					
長岡商業	総合ビジネス	4	4	4	3	3
正徳館	普 通	1	1	1	統合	
栃尾	総 合	1	1	1	1	1
見附	普 通	2	2	2	2	2
柏崎	普 通	5	5	5	5	5
柏崎常盤	普 通	2	3	2	2	2
柏崎総合	総 合	3	3	3	3	3
柏崎工業	機械創造	3	3	3	3	3
	電気技術					
	環境化学					
小千谷	普 通	5	4	4	4	4
小千谷西	総 合	3	3	3	3	3
計		57	58	54	52	52

<定時制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
長岡明德	普通(午前部)	3	3	3	統合	
	普通(夜間部)	1	1	1		
長岡明德 (セルパデザインハイスクール・通学コース)	普通(午前部)				3	3
出雲崎	普通(午前部)	1	1	1	1	1
計		5	5	5	4	4

<通信制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
長岡明德 (セルパデザインハイスクール・オンラインコース)	普 通				若干人	若干人

<中等教育学校>

学 校 名	課 程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
柏崎翔洋	前期課程	(2)	募集停止			
中等教育学校	後期課程	2	2	2	2	

<中学校>

学 校 名	募集学級数	募集学級数の見込み			
	R7	R8	R9	R10	R11
柏崎高校附属中学校(仮称)		(1)	(1)	(1)	(1)



(エリア④ 十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町)

	R7	R8	R9	R10	R11
中学校卒業者数	1,172	1,261	1,157	1,158	1,127
前年差	-112	89	-104	1	-31
	R7	R8	R9	R10	R11
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	26	27	25	25	25
増減	-3	1	-2	0	0
定時制学級数	3	3	3	3	3
増減	0	0	0	0	0
全定学級数	29	30	28	28	28
増減	-3	1	-2	0	0
全日制学校数	9	9	9	9	9
増減	0	0	0	0	0
定時制学校数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和 8 年度	・ 十日町高校に探究的な学びに重点を置いた新しい普通科系学科の『クロス探究科（仮称）』を設置する。（※ P. 5 参照）
令和 9 年度	・ 国際情報高校を募集停止とする。 ・ 国際情報高校の校舎内に、ケンブリッジ国際教育プログラムを導入した新たな全日制単位制高校として、『国際フロンティア高校（仮称）』を設置する。（※ P. 5 参照）
令和 10 年度	予定なし
令和 11 年度	予定なし

検討事項	・ I C Tを活用した遠隔授業の拡充について検討する。 ・ 地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・ 「セルフデザインハイスクール」の設置について検討する。 ・ 総合学科のあり方について検討する。 ・ 中等教育学校のあり方について検討する。
------	--

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
小出	普 通	3	3	3	3	3
国際情報	国際文化	3	2			
	情報科学					
国際フロンティア(仮称)	専門系			2	2	2
六日町	普 通	4	5	5	5	5
八海	普 通	2	2	2	2	2
塩沢商工	地域創造工学	2	2	1	1	1
	商 業	1	1	1	1	1
十日町	普 通	4	4	3	3	3
	クロス探究(仮称)		1	1	1	1
十日町総合	総 合	3	3	3	3	3
松代	普 通	2	2	2	2	2
計		24	25	23	23	23

<定時制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
堀之内	普通(午前部)	2	2	2	2	2
十日町	普通(夜間部)	1	1	1	1	1
計		3	3	3	3	3

<中等教育学校>

学 校 名	課 程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
津南中等 教育学校	前期課程	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)
	後期課程	2	2	2	2	2

(エリア⑤ 糸魚川市、妙高市、上越市)

	R7	R8	R9	R10	R11
中学校卒業者数	2,110	2,175	1,969	2,016	1,993
前年差	-112	65	-206	47	-23
	R7	R8	R9	R10	R11
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	37	38	34	35	35
増減	-2	1	-4	1	0
定時制学級数	2	2	2	2	2
増減	0	0	0	0	0
全定学級数	39	40	36	37	37
増減	-2	1	-4	1	0
全日制学校数	11	11	11	11	11
増減	0	0	0	0	0
定時制学校数	1	1	1	1	1
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和8年度	予定なし
令和9年度	予定なし
令和10年度	・高田南城高校を「セルフデザインハイスクール」とする。 (※ P.7 参照)
令和11年度	予定なし

検討事項	・ICTを活用した遠隔授業の拡充について検討する。 ・地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・「産業高校」の設置について検討する。 ・総合学科のあり方について検討する。 ・中等教育学校のあり方について検討する。
------	--

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R7	R8	R9	R10	R11	
高田	普 通	5	5	5	5	5	
	理 数	1	1	1	1	1	
高田北城	普 通	4	4	4	4	4	
	生活文化	1	1	1	1	1	
高田農業	生物資源	4	4	4	4	4	
	食品科学						
	農業土木						
上越総合技術	機械創造工学	5	5	4	4	4	
	電気情報						
	建築環境						
	土木防災						
高田商業	総合ビジネス	3	3	2	3	3	
有恒	普 通	1	1	1	1	1	
新井	総 合	3	4	3	3	3	
糸魚川	普 通	3	3	3	3	3	
糸魚川白嶺	総 合	3	3	2	2	2	
海洋	水産資源	2	2	2	2	2	
	海洋開発						
計		35	36	32	33	33	

<定時制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R7	R8	R9	R10	R11	
高田南城	普通(午前部)	2	2	2			
高田南城 (セルフデザインハイスクール・ 通学コース)	普通(午前部)				2	2	

<通信制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R7	R8	R9	R10	R11	
高田南城	普 通	若干人	若干人	若干人			
高田南城 (セルフデザインハイスクール・ オンラインコース)	普 通				若干人	若干人	

<中等教育学校>

学 校 名	課 程	募集学級数	募集学級数の見込み				
		R7	R8	R9	R10	R11	
直江津	前期課程	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	
中等教育学校	後期課程	2	2	2	2	2	

(エリア⑥ 佐渡市)

	R7	R8	R9	R10	R11
中学校卒業生数	370	385	376	379	310
前年差	-30	15	-9	3	-69
	R7	R8	R9	R10	R11
	募集学級数	募集学級数の見込み			
全日制学級数	10	10	10	10	9
増減	-1	0	0	0	-1
定時制学級数	1	1	1	1	1
増減	0	0	0	0	0
全定学級数	11	11	11	11	10
増減	-1	0	0	0	-1
全日制学校数	4	5	5	5	4
増減	0	1	0	0	-1
定時制学校数	1	1	1	1	1
増減	0	0	0	0	0

◆ 再編整備の概要

令和 8 年度	・ 佐渡中等教育学校前期課程の募集を停止する。 ・ 佐渡中等教育学校の校舎内に佐渡高校両津キャンパス（単位制による全日制課程普通科）を設置する。
令和 9 年度	予定なし
令和 10 年度	予定なし
令和 11 年度	予定なし

検討事項	・ I C Tを活用した遠隔授業の拡充について検討する。 ・ 地域の特性や志願状況等を踏まえ、小規模校のあり方について検討する。 ・ 「セルフデザインハイスクール」の設置について検討する。 ・ 総合学科のあり方について検討する。
------	---

◆ 募集学級数の見込み

<全日制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
佐渡	普 通	5	4	4	4	4
両津キャンパス	普 通		1	1	1	1
羽茂	普 通	1	1	1	1	1
佐渡総合	総 合	3	3	3	3	3
計		9	9	9	9	9

<定時制課程>

高 校 名	学 科	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
佐渡相川分校	普通(午前部)	1	1	1	1	1

<中等教育学校>

学 校 名	課 程	募集学級数	募集学級数の見込み			
		R7	R8	R9	R10	R11
佐渡中等 教育学校	前期課程	(1)	募集停止			
	後期課程	1	1	1	1	

※ 本資料は、新潟県のホームページにも掲載しています。

「新潟県 将来構想」で検索または、下記二次コード読み取りから、新潟県ホームページ「県立高校の将来構想」（令和7年3月公表）について」の記事にアクセスし、ページ内に掲載されているファイルをご覧ください。



【問い合わせ先】

新潟県教育庁高等学校教育課

将来構想推進室

電話 025-285-5511（代） 内線 3887

Eメール ngt500050@pref.niigata.lg.jp

URL <https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kotogakko/>